

# 第七回 国会 行政委員会議録 第三十五号

(八六九)

昭和二十五年五月二日(火曜日)

午後一時四十九分開議

出席委員

委員長 中島 守利君

理事生田 和平君 理事大泉 寛三君  
理事川本 末治君 理事皆家 喜六君  
理事野村專太郎君 理事藤田 義光君  
理事久保田鶴松君 理事大石ヨシエ君  
河原伊三郎君 小玉 治行君  
清水 逸平君 田中 豊君  
吉田吉太郎君 龍野喜一郎君  
床次 錦二君 大矢 省三君  
門司 亮君 池田 峰雄君

出席府委員

全国選舉管理委員会事務局長 吉岡 恵一君  
委員外の出席者 専門員 有松 昇君  
専門員 長橋 苗男君

委員長高橋英吉君及び吉田吉太郎君辞任につき、その補欠として淵上房太郎君及び前尾繁三郎君が議長の指名で委員に選任された。

五月二日 国会議員の選挙等の執行経費の基準に関する法律案(内閣提出第一五八号)(參議院送付)の審査を本委員会に付託された。

本日の会議に付した事件 国会議員の選挙等の執行経費の基準(内閣提出第一五八号)(參議院送付)閉会中審査に関する件

○中島委員長 これより会議を開きます。

国会議員の選挙等の執行経費の基準に関する法律案を議題といたします。ただいままで予備審査がありましたのが、ただいま本付託になりましたので、本案を議題といたします。しかし本案は参議院において修正されておりますので、この点について政府委員の説明を聽取りたいと思います。

○吉岡政府委員 法案の参議院において修正になりました箇所の説明を申し上げます。

第十三條の第一項第四号の表でございますが、これは区に対する事務費の基準をきめておるものであります。原案におきましては十万人以上の区と、十万人以下の区と二つにわけておつたのであります。十万人以下の区におきましては、五万人未満の区が相当ござります。三十あるのであります。

それから十万人以上の区におきましても、十五万人を越える区もございまして、そういうものを市と異なつて二段階にするのは相当地理的であります。

五月二日 本日の会議に付した事件

委員長高橋英吉君及び吉田吉太郎君辞任につき、その補欠として淵上房太郎君及び前尾繁三郎君が議長の指名で委員に選任された。

五月二日 国会議員の選挙等の執行経費の基準に関する法律案(内閣提出第一五八号)(參議院送付)の審査を本委員会に付託された。

本日の会議に付した事件 国会議員の選挙等の執行経費の基準(内閣提出第一五八号)(參議院送付)閉会中審査に関する件

す。ここで申し上げておきますが、十万人以上の区は、東京だけあります

が、四区ございます。

それから次は第五項の修正であります。第五項は区分を修正をいたしましたが、おの／＼の区分の金額をそれで増加させまして、区において減少する金額と、市において増加する金額を大体において一致させました結果、予算の総体には移動がございません。結局大都市の区から市へ事務費をふやしてやつたというようななかつこうになります。その結果大阪市におきましては、これは市と区との事務費を合せたものでございますが、二百万円近く、京都市においては四十万円近く、名古屋市は百五十万円程度、神戸市が約六十万円、横浜市が約百万円、東京都が約四十万円減少いたしまして、それ以外の市がそれ／＼一万円程度から十二万円程度増加することになります。

○中島委員長 これより質疑を続行いたします。

○吉岡政府委員 ただいまの修正の報告であります。第一案、第二案、第三案とあります。第一案はどいう区別でありますか。

○門司委員 これは第一案を採用しております。

○吉岡政府委員 これは第一案を採用してあります。

○門司委員 この簡単伺いたいのであります。結果に比べますれば、解散による総選挙の場合、この法律が通りますれば非常に遅つて来る考え方です。

○門司委員 私の心配いたしておりま

すのは、今御答弁になりました点であります。衆議院は御承知のように解散になるかわかりませんが、ところがこの法律案の内容を見ますと、大蔵省と予算を折衝してきめますのは、今御答弁になりました点であります。衆議院は御承知のように、いつまで、きわめて早く大体においてこの線に沿つてしまつ得ると存じますので、従つて法律ができたと、できな

国で約一億八千万円ばかり不足が出来ました。それがために、市町村に非常な迷惑をかけて渋滞がなか／＼つかなかつたよ／＼な例があつたのであります。

この点については今度こらいう基準がはつきりきめられまして、この基準が高いとか、安いとかということは別問題といたしまして、基準がはつきりきめられました以上は、そういう市町村に間違ひがないようにおやりになられると御確信があるかどうか伺いたい。

○吉岡政府委員 この法律が定りますと、この前の衆議院の選挙におけるような手違いはよほど少くなる。ただ衆議院の解散による総選挙の場合におきましては、どうしても予測しないときには解散がござりますので、予算をとるのがどうしても遅れる場合がございま

す。従つて選挙の費用を法律がきめておりまして、なか／＼予算がきまります。結果に比べますれば、解散による総選挙の場合、この法律が通りますれば非常に遅つて来る考え方です。

○吉岡政府委員 今お話を第一点は、こういう基準を定めておられますれば、大蔵省と予算を折衝してきめますのは、先ほど申し上げておりますように、この中に十分織り込まれておるかどうか。

○吉岡政府委員 今お話を第一点は、こういう基準を定めておられますれば、大蔵省と予算を折衝してきめますのは、先ほど申し上げておりますように、この中に十分織り込まれておるかどうか。

ます場合においてのことが、多少しんしゃくされておるようではあります

が、実際上の問題といたしましては、選挙にあたりましてはきわめて多くの費用がいるということとも御存じでありますし、また期日が限られておりますので、選挙の執行にあたりましては、やむを得ざるきめられたほかの出費がいるようなことが、私は直接の市町村の管理委員会で多くあると思います。それは餘裕が十分に見えてあるかどうか

といふこと、それからさらにもう一つついでにお伺いしておきたいと思いま

すことは、先日地方自治体の警察官の

諸君が参りまして、選挙取締りに對す

る費用が、前年度は國から出したが、

本年度もやはり國からこれを出して

いるものが全部含まれておるのかどう

か。それからさらに選挙費用が、特に

選挙取締りに關する費用といふもの

は、先ほど申し上げておりますよ

うに、この中に十分織り込まれておるか

どうか。

○吉岡政府委員 今お話を第一点は、

こういう基準を定めておられますれば、

大蔵省と予算を折衝してきめますのは、

やはり何にも基準がない場合と違つて、きわめて早く大体においてこ

れの線に沿つてしまつ得ると存じます

ので、従つて法律ができたと、できな

いとでは、非常な違いがあります。ま

た今お話を選挙の執行に際して、不足の経費が生じました場合には、小さい金額でございますれば、第十八條に規定しております百分の五以内で求めました調整の費用でまかない得ると思うのであります。しかしだけ不足の費用ということは、そう起つて来ることも考えられませんし、もしそういう場合があれば、あらかじめ法律の改正になるものと考えます。

それから第二点の取締りの費用であります、自治体警察の費用のみならず、国家地方警察を要します取締りの経費も、これとは完全別個であります。これは選挙執行の費用だけを規定してあるのであります。

○門司委員 今の警察の問題でもありますし、また十八條の関係でもあります、昨年の選舉におきましては、先ほど申し上げましたように、七億七千萬円がさらに一億八千万円の不足を来て、そちらして大蔵省では、その算定が非常にむづかしい、ということが理由となつておりますて、非常に時期的に遅れた。しかも当時の責任者であります増田官房長官にいくら質問いたしましたが、お答えにならなかつたのであります。そして市町村は非常に迷惑をしておつたのでござりますが、もしましても、いくら話をしても、一向はかばかしいことにならなかつたのであります。そこで市町村は非常に迷惑を申上げますが、この前の経験では、私どもは非常に苦い経験をなめています。ういう場合には、この基準で、市町村から寄せられました調書というようなものは、ただちに取上げられるというふうに、選舉管理委員会ではお考えになつているかどうか、これは繰返しておっしゃる。大蔵省では、それを調査する――はたしてその通りであるか、言いがかり

りであるか、わからぬから、これを調査するということに藉口いたしまして、期日が非常に遅れた事実がありますので、当局はこの点をどういろいろ考えて対処せられますか。

○吉岡政府委員 この基準に関する法律に盛つてあります基礎数字は、大体において昨年の衆議院議員の選舉後におきまして、各市町村あるいは府県に参りまして、実態を詳細に調査をしてつくつた数字でありますと、大まかに申して、大体これでやつて行ける数字だと考えます。

○門司委員 さつきの警察官の取締りの関係でありますか、これは執行だけであつて、取締りの方には関係がないというような御答弁でございますが、そういたしますと、実際上の問題として、選舉に関する取締りが全然いらぬとは言えないと思いますし、われくから考えますすれば、別段取締りをいたしてもらわなくてもわざともさしつかえはないのであります、取締りの方の側から言うと、やはり取締りの必要があるということになつて来るのですあります。管理委員会にこれをお聞きしてもわからぬかと思いますが、国は選挙のある場合には、やはり地方のそうちした特別の財政の出費に対して、何か費用の出せるようなことになつてゐるかどうか、これはあなたの方に直接聞いてもおわかりにならないかもしません。しかし選舉をする一連の関連性を持つていますから、一応あなたの方でもお考えでもありましたら、お伺いしたいと思います。

○吉岡政府委員 取締りの費用につきましては、多少は聞いております。國の費用については、何か國家地方警察

の費用にははつてゐるということでありまして、自治体警察の費用は用意しないで、平衡交付金でやつてもらいたいという話のよう聞き及んでおります。詳細につきましては、関係の筋からお聞き頃たいと思います。

○床次委員 ちよつと参考に伺つておきますが、投票所の数が非常にふえましたために、投票率がふえて、非常に棄権防止になることは、けつこうなことがあります。ですが、いわゆる中都市が昨年どのときと連つて、大分その費用が減らされたという意見を申してゐるのであります。ですが、参議院の修正におきまして、若干その点補われたように見受けられるのであります。しかしながら今回の配付によりまして、多少投票所の数などを減らさざるを得ないというふうなことが出て来るかどうか、その点について承りたいと思います。

それからこの機会に、あるいはどこかほかで御説明があつたかもしませんが、棄権防止につきまして、どの程度のことをおられますか、御腹案がありますならば、お話をいただきたいと思います。

○吉岡政府委員 この結果、市等において、多少国から交付される費用が減る場合に、投票所の増減の問題でござりますが、これは大体都市におきましても、投票所は減らさずにやつて行けると思います。

○床次委員 梨権防止の費用は、どうか特別に計上してあるのですか。

○吉岡政府委員 事務費の中に、啓蒙

○中島委員長 質疑は終了いたしました。  
止の費用でございます。  
君。 これより討論に入ります。生田和平  
君。 なつて、昨年においては、一億数千万  
円の不足を来て、これを補助して來  
たわけであります。今回政府が選舉  
費用の基準法をきめたということは、  
非常に適切なことと考えます。ただそ  
の内容におきましては、昨日いろ／＼  
質問したのであります。われ／＼の  
考え方と、政府の考え方とは、大分そ  
こに食い違いがあるよう思います。  
かりに一例を申し上げますと、第十三  
條の第一号において、都道府県の人口  
の割合によつている点であります。が、  
この表によりますと、五十万人未満、百  
五十万人以上百万人未満、百万人以上  
百五十万人未満、百五十万人以上二百  
万人未満、二百百万人以上三百万人未  
満、あるいは三百万以上、こういうよ  
うな段階にわけてあるのであります。  
小さいのでは五十万人を基準にしてい  
るのであります。先ほど申し上げたと  
うに、九十九万九千人というのと、百  
一万という数字は、わずかに一方か  
万五千の相違のために、かりに百万人  
の率を加乗するとか、あるいは二百五  
人の率を加乗するとかいうふうな相違  
を采るのです。あります。われ／＼の希望といたしまし  
ては、大都市は大きな集団であります  
から、割合に費用を減することができ  
ると思いますが、大都市、中都市、小

都部であります。また町村においても町は大体標準法によりますと、人口五十万とか百萬というのを単位にしてやつておりますが、われくは有権者数に加算するがふえると思うのであります。この基準法によると、人口五十万とか百萬というのを単位にしてやつておりますが、われくは有権者数に加算するといふことが、ほんとうに適正ではないか、こういふような考え方を持っています。それにつきましては、ただいま申し上げたように、都市と農村の關係がありますから、それをその率をもんぱり加算いたしまして、あまり不公平にならないようにしてもらいたいと思います。その他にも宣伝費の割合とか、俸給手当等の割合とかいうものになります。また参議院のこの修正についても、いろいろ疑問の点が多いのであります。また参議院のこの修正についても、必ずしも私はこれがいいとばかりは考えないのであります。かりに今日これを本院において修正するといふことを止めても、あるいは司令部に承認をもらはれるとかいう手続がありまして、本日の会議でどういふ間に合はないと考えるのであります。しかばねこの法案を不成立にしたならばどういふ結果になるかと申しますと、ちよどやはり昨年のごとき選舉費用の争奪戦が始まつて、なお一層の不公平を生ずるのではないかということをおそれるのであります。この法案は私は非常に不完全なものであると考えますけれども、ないよりはよほどましでありまして、やはりこの基準でも一応採用する方が適当ではないかと思うのであります。われくは来るべき最も近い機会にて、やはりこの基準でも一応採用する方におきまして、選舉管理委員会はな十分に審議調査をいたしまして、適当

な程度に修正せられんことを希望いたしました。

○中島委員長 他に討論の通告がございませんので、これをもつて討論は終局いたしました。

これより採決に入ります。本案に賛成の諸君の御起立を願います。

〔総員起立〕

○中島委員長 起立総員。よつて本案は原案の通り可決されました。

なお衆議院規則第八十六條による報告書作成の件は、委員長一任に御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○中島委員長 御異議なしと認め、さよう決します。

○中島委員長 次にお詰りいたしました。閉会中審査に関する件を議題といたします。

本委員会におきましては、本会期中は地方税法案を初めといたしまして、八件の法案の審査を終了し、また地方自治、地方財政、警察及び消防に関する国政調査等、地方行政の円滑なる運営を期するために努力いたしましたのであります。しこうして国会法第四十七條第二項の規定により、院の決議を要するので、議長に閉会中も繼續して審議した旨申し出たいと思いますが、その手続等万般については、委員長に御一任を願うこととし、申出書を提出するに御異議ありませんか。

○中島委員長 御異議なければさよう決します。

次にお詰りいたしましたが、閉会中の審査が認められました場合、徒采の消防に関する小委員会、競大法起草に関する小委員会、特別市制に関する小委員会をそれ／＼継続してその審査を続けるかと考へますか、この点御異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○中島委員長 御異議なければさよう決します。

次に本委員会に付託になりました法案その他委員会に必要な処置はこれで大体終りましたが、しかし重要な法案である、地方税法に関する問題が御承知のようない状態にあります。その結果としていかなる法案が当委員会に付託になるかわかりません。本委員会は散会しません、休憩の状態において私はこの問題を適宜処理したいと思います。地方財政に関する責任は当委員会が持つておるのであります。現在のようない状況において地方財政の不安はあるお互いの責任は重大でありますから、どうぞこの点はさよう御承知を願いたい。

この機会に委員長としてごあいさつを申し上げます。

○鶴田委員 第七回国会も本日閉会になりますが、新聞その他の報道によりますれば、常任委員長の更迭ということはだ遺憾の点がありますが、今は私は辞職をいたしました。ただいま藤田委員よりまことに感謝いたしますが、許可されるものと考えております。

ただいま私から申せばかつてであります、御承知のように病後であります

午後二時三十三分休憩

〔異議なし」と呼ぶ者あり〕

長期間にわたり、慎重真剣に研鑽すべく問題が山積いたしております。警察の問題もそのままになつております。

この際当委員会の一委員として特に委員長にお願いしたいことは、かかる際におきましては、党利党略を離れまして、先輩ことに御苦勞ではあります

が、常任委員長の重責を継続されまして、当委員会の内容の充実にさらに特

段の御努力をお願いしたい。政党を超えて、かようなことを申し上げて申証あ

らせていたいたよな次第であります。皆さん特別の御配慮をお願いしませんが、どうぞ御了解を願いたい

と思います。とにかく第七回国会におきましても、またその以前の国会におきましても、大体地方行政委員各位はそ

のまま、あまり変動がないのであります。その間甚大なる御支援を受けま

す。その間甚大なる御援助を受けまして、まことにありがたく、私は一生

の間に深く記念をしておきたいと思う

のであります。どうか地方自治のため

に平素抱負しております理想を実現

したいと考えて、この席におひました

次第であります。第七回国会におきまし

て非常に重要な法案であります地方

税法、それらの審議にあたりましても、私どもは理想とは反しておりませんはな

い。いづれ次会に譲ることにしま

す。その間甚大なる御援助を受けま

す。その間甚大なる御援助を受けま

す。その間甚大なる御援助を受けま

せんところ、私は病後体力が弱つて、十分に皆さんの御期待通りに活躍することができませんので、今回は何と

しても辞退したいと考えるのであります。これは一面から言うと、私の信

念と私の体力との二つを考えまして、先輩ことに御苦勞ではあります

が、せつからくの御厚情に対しであります。せつからくの御厚情に対し

て、かようなことを申し上げて申証あ

りませんが、どうぞ御了解を願いたい

と思います。とにかく第七回国会におきましても、あまり変動がないのであります。その間甚大なる御支援を受けま

す。その間甚大なる御援助を受けま

〔参考〕  
国會議員の選舉等の執行経費の基準  
に関する法律案（内閣提出第一五八号）に關する報告書  
〔都合により別冊附録に掲載〕

〔休憩後は開会に至らなかつた〕

昭和二十五年六月十日印刷

昭和二十五年六月十二日發行

衆議院事務局

印刷者 印 刷 厅